

## 受賞者のその後の取組（平成 27 年現在）

<b>平成17年度 経済産業大臣賞 受賞</b>	受賞者名
	<b>東洋インキ製造株式会社 印刷・情報事業本部 オフセット事業部 （現：東洋インキ株式会社 インキ営業本部）</b>
	所在地
	東京都中央区
1. 活動継続 なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>受賞対象であった MP ドラム缶システムは、当社グループ以外への拡大がほとんどなく想定していた MP ドラム缶のコスト低下につながらなかったなどの理由で、現在は、東洋インキグループが販売しているオフセットインキへの MP ドラム缶システムへの採用は行っていない。</li> <li>TME システム構築に合わせて実施したドラム缶外装色の統一（従来は黄・紅・藍・墨の色ごとにドラム缶外装色を塗り分けていたものを灰色一色に統一）については、現在も継続している。</li> </ul>
2. 活動の広がり あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドラム缶外装色の統一については国内の他のインキメーカーへの展開を行っている。</li> </ul>
3. 活動の進化 なし	
4. 今後の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>MP ドラム缶システムに関しては、今後の計画はないが、東洋インキグループでは、印刷インキやその容器に関して、今後も環境対応を進めていく。</li> </ul>
5. その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷インキそのものの環境対応を推進し、米ぬか油を用いたライスインキ「TOYO KING NEX NV100 ライス」は、2011年に「第8回エコプロダクツ大賞」優秀賞などを受賞している。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>ライスインキ 「TOYO KING NEX NV100 ライス」</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> <li>共同受賞者である（有）アップコーポレーションでは、現在も MP 缶を扱っている。二重構造による漏洩遮断性や防錆性により、低濃度ウラン放射能汚染物の収納に、放射性物質指定保管容器「MP-RL 缶」として採用されている。</li> </ul>

（次頁に表彰概要掲載）

## 【表彰概要】

項目	概要
受賞者名	東洋インキ製造株式会社 印刷・情報事業本部 オフセット事業部 有限会社アップコーポレーション JFEコンテナ株式会社 営業企画室・物流管理室
所在地	東京都中央区、東京都葛飾区、兵庫県伊丹市
開始時期	2002年1月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフセットインキ缶リサイクルシステム「東洋 MP エコサイクル (TME) システム」を共同で開発し、ドラム缶更生時の洗浄工程をなくすことによる環境負荷低減とコストダウンを実現したドラム缶のリサイクルシステムを完成させた。</li> <li>・薄手のブリキ製カートリッジを内装したドラム缶 (MP ドラム缶) を、オフセットインキの容器として使用し、使用后、内容物に直接接触する内装缶のみを脱着・交換を行うことによって、ドラム缶のリサイクルを容易にし、更生時に発生していた洗剤・溶剤等の廃棄物を大幅に削減した。また、内装缶や残肉を建設資材 (丸棒) やセメント助燃材として再資源化した。</li> <li>・他社に先駆けて MP ドラム缶を用いることにより、洗剤・溶剤や残肉など通常のドラム缶更生時に発生する環境負荷を低減すると同時に、MP ドラム缶システムの全国ネットを構築した。</li> <li>・MP ドラム缶は、厚さ約 0.23mm のブリキ製カートリッジ (内装缶) を外装ドラム缶の内側に隙間なく密着させるもので、ドラム缶上部の巻き込み部分に特殊な加工を施すことで、内装缶が外装缶にしっかり巻き付けられるようにした。また、内装缶の自動脱着装置も作成した。</li> <li>・外装缶を循環使用 (MP ドラム缶では 15~20 回) しているため、ドラム缶の安定供給が可能になり、ドラム缶を用いた不法投棄の抑止にも繋がる。</li> </ul>